

第 3 回

姫路市経済振興ビジョン検討懇話会 事務局報告資料

令和 8 年（2026年） 5 月 2 9 日（金）

姫路市 観光経済局 商工労働部 産業振興課

事務局報告

- 1 姫路市経済振興ビジョン 概要・スケジュール p3
- 2 第2回姫路市経済振興ビジョン検討懇話会（3月27日開催）
発言要旨 p4～5
- 3 提言書 内容紹介 p6～10

1 姫路市経済振興ビジョン ～概要・スケジュール～

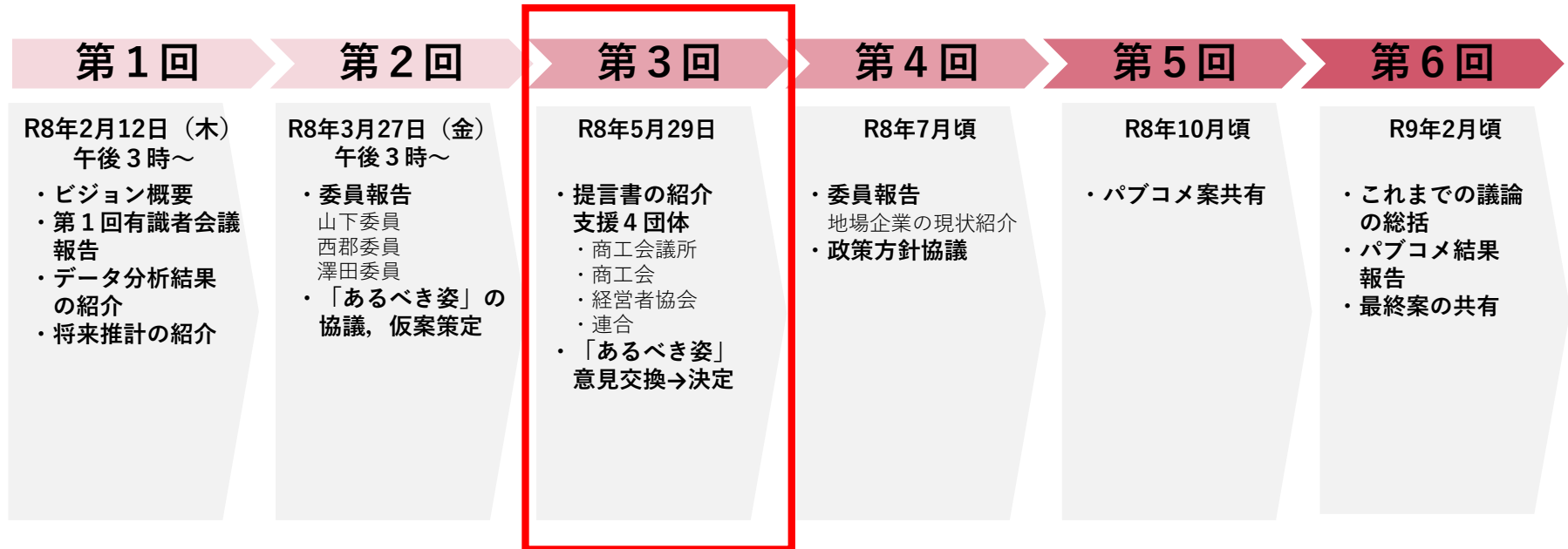
姫路市経済振興ビジョン

姫路経済の成長と持続的な発展を目指し、成長への道筋を実現・実行するものとして今後取り組む戦略、施策を体系付けて整理した計画

人口減少下においても地域資源を活かし持続可能な経済成長を目指す

姫路市経済振興ビジョン 改定スケジュール

- ・ 改定作業は2カ年かけて行い、令和9年3月に完成予定
- ・ 検討懇話会は令和7年度に2回、令和8年度に4回程度開催を想定
- ・ 姫路市経済の10年後の「あるべき姿」を見据え、有識者からなる検討懇話会にて協議する



2 第2回検討懇話会 > 発言要旨

10年後のあるべき姿を始めとして、バックキャスティングやビジョンの内容について事務局案を基に具体的な考え方についてご意見をいただいた

3/27（金）検討懇話会 主な発言

あるべき姿

- ヒト・地域・活力・土台という4つのキーワードは、姫路総合計画内の行動指針として、様々な分野でヒト・地域・活力・土台の4観点を掲げているため、本ビジョンの導入としても分かりやすい
- 一方、経済振興ビジョンでは住民目線で考えることが重要になるため、**経済計画にふさわしい表現への翻訳が必要**である
- 多くの人に当てはまる最大公約数的な文面だが、これまでと同じようなビジョンを策定するのか、勇気を出して目指す姿を定めるのかを選択する必要がある

バックキャスティング

- 縮小・均衡状態から大きく角度を変えるためには、**飛躍的な「10年後のあるべき姿」**を定めそこからバックキャスティングで考える必要がある

姫路市の強みを活かしたビジョンの定め方

- まだ活用できていない無形資産も含めて、姫路市にどのような可能性があり、変化する世の中でどういう課題があり、姫路市がどういった方向性を目指すのか、示せるとよい
- 方向性に市の特色が表れていないとしても、**取組方法に市の独自色が出ていればよい**と考える
- **より具体的かつインパクトのある内容を記載してほしい**と感じた。姫路市の強みを並べ立て考える必要がある

2 第2回検討懇話会 > 発言要旨

ビジョンの4つの観点毎に、ブラッシュアップの方向性についてご意見をいただいた

3/27（金）検討懇話会 主な発言

ビジョンの具体的な内容検討

ヒト

労働人口・移住者増加に向けた支援パッケージ

- 10年後は目と鼻の先である。「〇〇支援」等の形で姫路市特有の強みを分かりやすく推し出すことが必要と考える
- 姫路と言えば〇〇、というメッセージを発信することで、住みたい・働きたいと考える人が増えると考ええる。子育て支援は既に多くの市で取り組まれているが、「姫路といえば労働者支援」「姫路といえば学生支援」等を打ち出すことも一案である

地域

イノベーションの創出

- ビジョン案に「新たな価値・イノベーションを創出する」と記載しているが、具体的にどの規模の企業でイノベーションを起こそうとしているのかが明確でない、例えば日鉄等の大手企業でイノベーションを起こすことは、非常に難題である
- 姫路市でイノベーションの成功事例を作り、姫路市には新産業創出の機運・熱量があると全国に発信するためには、まずは地元が盛り上がるのが必須である
- 事務局が「姫路市には『はりま新産業創出エコシステム』がある」と発言していたが、私はどこにあるか知らなかった。泥臭く活動し、PRする姿勢が不足しているのではないか

活力

稼ぐ力や技術力の向上、DX・AI等の先進的技術の導入

- “イノベーションエコシステム”等の先進的なキラキラした概念を掲げることは妥当と考える一方、差し迫る10年後の目指す姿を考えるうえでは、姫路ならではの泥臭さも重要である
- キラキラした都市がやるべき施策と、姫路市がやるべき施策を区別して差別化することで、愛される姫路市になることができる

土台

地場産業の振興

- 最初の5%の人材を掘り起こす必要がある。姫路市にUターンしてきた人がなぜ帰ってきたのかを深掘ると、5%の人材を見つけるきっかけになりうる
- スタートアップ企業を姫路市に誘致したい・地場産業事業者と繋がりたいと考えているものの、きっかけづくりが難しい

3 提言書 内容紹介 > 提言書とは

姫路市経済振興ビジョンの改定に伴い、各支援団体の方針を確実に反映させるため、バックカスティングの観点に基づき提言書の作成を依頼した

- 姫路市経済振興ビジョンの改定にあたっては、現状の産業関連データや将来予測等の情報を参照し、10年後の「あるべき姿」を描き、その実現に向け逆算して計画を策定する「バックカスティング」の手法をとる
- 10年後の「あるべき姿」に経済関連の支援団体の方針を反映させるために、検討懇話会に参画する4団体に提言書の作成を依頼
- 各団体からの提言書は姫路市経済振興ビジョンの関連資料として計画に添付予定

提言書における依頼内容

依頼先

姫路市経済振興ビジョン検討懇話会に参画する経済支援団体の四者
…姫路商工会議所、姫路市商工会、播磨経営者協会、連合兵庫西部地域協議会

依頼内容

検討懇話会での議論を踏まえつつ、下記3点に係る意見を求めた

- ・10年後の姫路の「あるべき姿」
- ・その「あるべき姿」を実現するために姫路市が持つべき視点
- ・団体自身が持つべき視点

※バックカスティングの観点を基に、姫路市域の経済に関して広く意見を頂戴したもの

期間

令和8年3月3日（火）から令和8年4月20日（月）まで

回答方法

電子メールによる

本日の目的

各団体の提言書の記載内容を検討懇話会において共有・確認する

今後の取扱い

各支援団体の意向・方針を経済振興ビジョンに反映させる

→第4回検討懇話会にてビジョンへの反映を確認

提言書は付随資料として経済振興ビジョンの一部とする予定

3 提言書 内容紹介 > 姫路商工会議所

「人材・企業・暮らし」を一体で強化し、地域内で稼げる経済をつくることが重要。
市は環境整備と成長支援を、商工会議所は現場起点の伴走と提言を担う。

	項目	提言書 要旨
	あるべき姿	人口減少や産業構造の転換が進む状況においても、経済規模と活力を維持・発展させることができる産業基盤を備えている。実現に向けては以下の要件を満たすことが望まれる。 ① 人口減少に対応…外国人材や女性の活躍促進、省力化等への投資の進展など ② 産業構造の転換…業態転換や第二創業などニーズに合わせて企業が柔軟に対応 ③ インフラと公共サービスの維持…インフラや公共サービスは働きやすさ・暮らしやすさの基盤
提言書 姫路商工会議所	姫路市が持つべき視点	4つの行動指針に基づき整理 ヒト…多様な人材の確保・育成・定着への支援 ・ 女性、高度人材を含む外国人の活躍促進 ・ 教育・訓練による成長分野への人材移動、AI・ロボット等の活用による省力化の普及・定着 地域…産学官連携と広域連携の推進 ・ 産官学での連携やスタートアップの活用をはじめ、協業が継続的に創出される環境の整備 ・ 市域のみでなく播磨圏域での情報共有、連携強化 活力…中小企業の成長と新たな需要創出 ・ 中小企業がサポーティングインダストリとしての技術力を活かして成長分野に進出し、稼ぐ力・競争力・付加価値向上を図る取り組みに対する支援 ・ 新たな産業の柱としての観光産業の育成 ・ 先端研究施設等の活用による“知の拠点”化 土台…暮らし、働き、住み続ける基盤整備 ・ これまでの産業の発展を支えてきた立地優位性の維持・向上および域内外から選ばれるまちとしての魅力向上 ・ 部局横断でのデータに基づいた施策実装
	会議所が持つべき視点	中小企業の経営支援、企業・支援機関等の連携促進、行政への政策提言により地域経済の発展に寄与

3 提言書 内容紹介 > 姫路市商工会

人口減少で市場が縮小する北部・離島地域を守るため小規模事業者の底上げが必要。
商工会は「攻めの経営支援」「事業承継・創業支援」「災害時の地域守り」を強化。

	項目	提言書 要旨
姫路市商工会	あるべき姿	「都市部の牽引力 × 北部・離島の底力」で、人口減少下でも豊かさを実感できる姫路市 - 都市部だけでなく、北部3町・家島も固有資源を活かし活力を維持する状態を目指す - 小規模事業者がデジタル活用や広域販路開拓で“稼ぐ力”を維持・向上・自走することが鍵
	姫路市が持つべき視点	① 小規模企業振興基本条例の制定と市場縮小対策 - 小規模企業を「地域経済の活力の源泉」と位置づける - 市の責務として財政措置を明記 - 市内小規模事業者への優先発注、観光・物産による外貨獲得支援などを制度化 ② 社会資本・生活インフラの維持強化 - 道路網整備、赤字ローカル線の維持、家島の海上交通確保は“命綱” - 若者定着・事業継続のためにも不可欠 ③ 伴走型支援の拡充 - 人手不足・物価高騰・DX/GX対応など課題が複雑化 - 賃上げ・価格転嫁ができる環境整備、資金・人材支援を強化
	商工会が持つべき視点	① 攻めの経営支援 - デジタル活用による広域販売支援 - 地域ブランド化による高付加価値化 - 経営革新（新規事業活動・DX推進等）に向けて寄り添い、共に進める伴走型支援 ② 事業承継・創業支援 - 高齢化による廃業は地域コミュニティの危機 - 第三者承継の推進、地域課題解決型の起業家育成 ③ 災害時の地域守り - BCP策定支援、商工会自身の災害対応力強化 - 過疎地域で「地域の守り手」として機能する体制づくり

3 提言書 内容紹介 > 播磨経営者協会

選ばれる産業都市になるためには、産業構造転換・人材戦略・外国人材活用・経営基盤整備 の4つを軸に、市と経営者協会が協働して取り組むことが不可欠

項目	提言書 要旨
あるべき姿	持続的に成長する産業基盤と、多様な人材が活躍できる労働環境を備えた、かつ人々が住み続けた いと感じる魅力を兼ね備えた、選ばれる産業都市
姫路市が 持つべき 視点	① 産業構造転換と生産性向上 ・ AI・ロボット導入支援 ・ 中小企業のデジタル化支援 ② 若者定着・人材確保 ・ 高校・大学・高専との連携強化 ・ 女性のキャリア継続支援 ③ 外国人材の戦略的活用 ・ 企業×教育機関の育成プログラム ・ 企業向け受入支援 ④ 企業経営を支える基盤整備 ・ 工業団地・物流インフラ整備 ・ 中小企業支援（金融・経営相談）
経協が 持つべき 視点	① 地域企業の経営力強化の中心となる ・ 経営者研修・セミナー ・ 労務管理・働き方改革支援 ② 人材育成・次世代経営者育成のハブ ・ 若手経営者ネットワーク ・ AI・ロボット時代のスキル教育 ③ 労使協調による安定した産業基盤づくり ・ 働きやすい職場づくり支援 ・ 外国人材受入支援 ④ 地域経済を代表する政策提言機能 ・ 企業の声を行政に届ける窓口 ・ 広域連携（播磨圏域）を見据えた政策形成

3 提言書 内容紹介 > 連合兵庫西部地域協議会

あるべき姿とは、「誰もが働き・育て・暮らし続けられる都市」。行政・労働・企業がそれぞれ役割を分担しながら同じ方向を向けることが重要。

	項目	提言書 要旨
	あるべき姿	働きやすく、子育てしやすく、高齢者にも優しいまちづくり ...子育て世代が活躍できる環境整備や定年を超えても働かれる高齢者が過ごしやすいまちづくりが重要
連合兵庫西部地域協議会	姫路市が持つべき視点	労働者がいきいきと活躍できるまちの実現に向け、市のアプローチが欠かせない。 市の取り組みを可視化することも重要。 ① 労働者支援（魅力ある企業への転換・促進支援） 賃金や処遇制度の是正、女性が働きやすい制度の充実、子育てしやすい制度の充実、働きやすい職場の整備推進、奨学金返還支援の拡充等による若手労働者支援、介護・休暇の充実、外国人雇用の促進、住居斡旋、高齢者雇用の充実 ② 子育て支援（将来の姫路を担う人材を育てる質の高い教育・充実した医療） 教育と医療の充実（IT教育、英語教育に特化したモデル校等）、大学キャンパス誘致（卒業後に姫路へ就職する選択肢が増える） ③ 高齢者への支援（超少子高齢化社会でいきいきと暮らせる場所づくり） 高齢者が住みやすいコンパクトシティの推進、コミュニティ・医療・福祉施設・公共交通などの充実、自動車が無くとも暮らせるまちづくり（公共交通の充実）
	連合が持つべき視点	① 政労使による意見交換の充実 労働者が暮らしやすい環境整備を推進 ② 合同研修会の充実 労働者間の交流